

# 焼尻郷土館

(旧小納家)

道指定有形文化財

開館期間 5月1日より9月30日まで 開館時間 午前9時より午後4時まで

観覧見学料 一般:330円 高校生以下:無料  
15人以上の団体については一人、250円



羽幌町教育委員会

お問い合わせ先

☎ 01648-2-3392 5月~9月 ☎ 0164-62-1178 (社会教育課)

## みどり豊かな 焼尻島

### 日本的な感覚と洋風建築の貴重文化財

小納家は石川県江沼郡塩屋村の出身で、焼尻島では漁業のほか呉服、雑貨商を営んできた。したがってこの建物は、住宅であるばかりでなく店舗を含み、さらに郵便局、電信局を併設しており、そのことが在来の建築様式に、洋風を複合させた興味深い解決を生みだしている。

街路に面した主屋は洋風2階建の棟で、郵便局、主玄関、店舗、電信局、客用宿泊室を含む。正面右側に六角のポーチを張出している郵便局入口がある。現在ポーチ側面から入るが正面がもとの入口であった。郵便局は現在タタミを敷いているが、かつては板敷であったろう。その奥は局員休憩室であったという。

正面中央が住宅主玄関であり、上がり縁の左右には尺角の大黒柱を立て威厳をそえている。ここから一直線に10帖、15帖、12.5帖(仏間)、上段・仏壇を配している。接客用の格式空間である。

正面左側は巾一間(1.8メートル)の下屋を囲い、間口四間(7.2メートル)の店舗に開放される。下屋部分が板土間の客溜り、1.3尺(39センチメートル)上って一部タタミ敷の「ミセ」である。低い根太天井の、ひろびろとした空間が見事である。客溜りから左手にはノザヤにつながれた土蔵へ連絡している。

「ミセ」の背後は各8帖の「イマ」と、「シュジンシツ」である。



▲焼尻島



▲店

2階へは玄関わきの階段から上がる。郵便局上が電信局であった。左手は6、8、6帖の客用宿泊室で船頭が使ったという。

主屋背後には平屋の棟を接し、生活作業空間と接客空間を含んでいる。

郵便局の後ろが、「ダイドコロ」・「ニワ」・「ナガシ」・「コメビツノヘヤ」などの生活作業空間である。板敷の「ダイドコロ」には「イロリ」を切り、大きな天窓から採光している。「ニワ」をはさんで「ナガシ」をとるタイプである。「ニワ」からは斜めに「シモベンジョ」を延ばしていたが、現在は切断されている。

「ダイドコロ」背後が「コメビツノヘヤ」、その隣りの三帖間が「オバアサンノヘヤ」である。

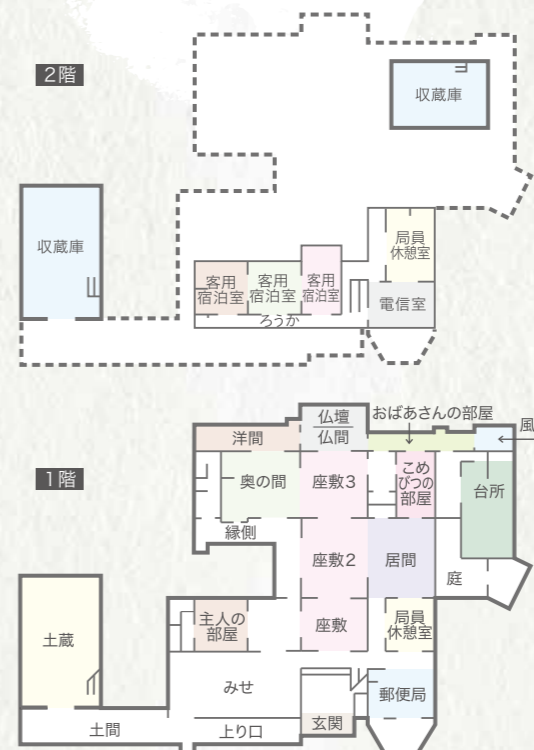
「ダイドコロ」に重い板戸を介して接しているのが主玄関から延びる接客用座敷である。座敷は、さらに仏間からカギの手に12.5帖の奥座敷へ延びている。これらの座敷に囲まれてカギの手には1間(1.8メートル)の桂の板縁を巡らしている。奥座敷山側の縁側は後補である。

主屋外観を洋風としたのは創建者の進取性を示すものであろう。屋根の垂鉛鉄板はイギリスから輸入したものと伝えられている。水平下見板、上げ下げ窓、六角の郵便局入口が洋風の主要素である。

正面の1階は和風店舗、2階洋風という姿は明治中・後期の市街地によく見られるものであった。また上下窓の配置を等間隔にこだわらず、内部の柱わりに準じているのは、日本的な感覚がおのずとあらわれたものであるう。

このような洋風消化のありかたは初期洋風建築を考えるうえで貴重である。

## 郷土館内部 平面見取図



▲奥の間



▲正面玄関より大広間として使用した部屋と仏間

## 羽幌町焼尻郷土館 (旧小納家)の概要

●所在地/北海道苫前郡羽幌町大字焼尻字東浜183番地●所有者/羽幌町●建設年/明治33年●復元完成/昭和52年12月13日●町文化財指定/昭和52年12月19日(羽幌町教育委員会)●道有形文化財指定/昭和54年11月27日(北海道教育委員会)●構造形式/木造平屋(一部二階)建、正面東向、寄棟造、屋根垂鉛トタン菱葺(一部カワラ葺)、外部下見板張、基礎自然石、土台敷●規模面積/桁行(間口)33.633m、梁間(奥行)22.433m、軒高(建上)6.600m●面積/一階部分:498.425㎡、二階部分:169.396㎡●合計/667.821㎡●屋根面積/797.500㎡

### 観覧・見学をされる方々へ

この建物は北海道教育委員会が指定した文化財です。今後数百年にわたり先人の足跡を後世に伝える貴重な建造物です。観覧される方は特に次のことをご守りください。

(記)

- 館内での火気使用、喫煙等は固く禁じます。
- 展示物に触れないで下さい。
- 館内での写真撮影はご遠慮下さい。
- 危険物(油類、火薬類その他引火のおそれのあるもの)の持込は厳禁します。
- その他職員の指示に従って下さい。



▲土蔵内部